

訪問看護の現場で、新卒の看護師を採用する動きが出てきた。需要が高まるなか人手不足を補うのが狙いで、新卒の若手にとっては夜勤が少なく働きやすい魅力がある。従来は臨床経験を積んだベテランが担ってきた分野。看護の質を維持しながら人手を増やしていくには、現場と教育機関などが連携して育成する体制づくりが求められる。

「体調はいかがですか」。9月上旬、新卒訪問看護師の黒堀真由さん(23)が東京都渋谷区の井上邦郎さん(78)の自宅を訪れた。在宅ケアの記録ノートに目を通した後、たんの吸引や手足のリハビリテーションを手際よく進める。

邦郎さんを介する妻の泉さん(77)は「機械の使い方でも教えてくれるからすごく助かる」と笑顔で話す。24時間体制の訪問看護を利用する前は、医療機器のプザーが鳴って一人で慌てることもよくあった。担当する看護師が新卒であっても「何回か来たらもうメンテナンスのようにやってくれから安心。若い人が来てくれて新鮮」と歓迎する。じっくり寄り添う

## 訪問看護 きたれ新卒

### 人手不足で採用増

送るからには手厚いサポートが欠かせない。黒堀さんが所属するケアプロ(東京・中野)は2013年から新卒訪問看護師の採用・育成を始めた。入社後は、まず先輩看護師と同行訪問しながら基礎的な技術を一つずつ学ぶ。1カ月目は週に一度、聖路加国際大学で看護技術の実習を受け、3カ月目からは段階的に単独訪問に移る。ただ、新卒の場合、利用者や家族からの療養上の質問に、とっさに答えられないこともある。

ケアプロでは訪問看護師全員にスマートフォンを支給し、看護師同士が連携する体制を整える。利用者の身体状況の変化や対応について疑問があれば、同じ利用者者を担当している他の看護師などに聞くことができる。大学に専門コース

## 日勤多い働き方魅力◆育成の充実課題

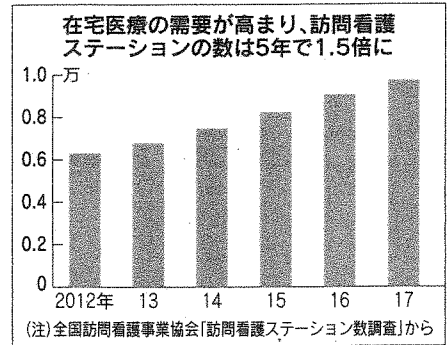
一方、在宅医療のニーズが高まり、日本看護協会の荒木暁子常任理事は「25年に向けて10万〜15万人が必要」と指摘する。とはいえ、人手不足の解消のためにスキルに伴わない看護師が配属される事態は避けなければならぬ。荒木理事は「新卒を指導する側の育成も進めて訪問看護ステーションを支援していく必要がある」と語る。

訪問看護師を手厚く育成するため、自治体と大学が連携する動きも出てきた。滋賀医科大学は16年、滋賀県から委託を受けて「訪問看護師コース」を開講。現場での学びを重視し、5週間の実習を課す。

訪問看護師は、利用者の日常生活にきめ細かく対応し、介護士なども連携する。聖路加国際大学の山田雅子教授は「訪問看護ステーション・教育機関・病院・行政が横一線につながって新卒の育成に取り組むことが欠かせない」と連携を呼びかける。(相馬真依)



井上さんの看護にあたる新卒訪問看護師の黒堀さん(東京・渋谷)



## 中核担う役割 期待

看護を学ぶ若い世代で、新卒時から訪問看護師として働く人が増えている。働き方が魅力的に見えるからだ。病院の看護師はシフトを組む日勤と夜勤を繰り返すことが多いが、訪問看護師は平日の日勤が基本となる。新卒で訪問看護師になることは、その後のキャリアにも生きる。病院での入院日数が縮まるなか、患者の退院後の生活をサポートする退院支援が重要視されている。病院勤務に移ったとしても、訪問看護の経験を生かして活躍する場面が見られる。

「格好いいユニホームを見て憧れるのも動機の一つ」というのは、ウィル訪問看護ステーションの岩本希代表。医療ドラマなどでよく見かけるユニホームに専門職としての魅力を感じられる人も増えていく。滋賀医科大学の「訪問看護コース」1期生の吉田彬人さん(28)は「自分たちは在宅医療が重要になると感じてきた世代」と語る。訪問看護師の平均年齢は病院勤務の看護師より高い現状があるだけに、若手が増えることへの期待は高い。日本医師会の釜瀬常任理事は「新卒は将来的に在宅医療の中核を担う人材としても重要」とみている。

彼の歌はきょうも各地で歌われている。信長貴富さん(46)は合唱曲を中心に多くの楽曲を手がける。合唱音楽の世界で数々の作品が演奏されている人気作曲家の一人

### 作曲家

### 信長 貴富さん

被災者を励ますため、私の合唱曲「ちびるに歌を」を動画サイトにアップしたいという申し出があり、各地の演奏会でも歌われ始めました。05年にドイツ・ロマン派の詩から作った曲が震災後に急速に広まったのは、



に招待してくれ、初演が実現したのです。福島若者が歌う「だから」から「ころよ、せめてうたえ」「命返さるまでうたえ」の歌詞に心が震えました。震災の春から夏にかけて「種を蒔く」人」という題名の男声合唱曲とマリンバ曲を作曲して、原発事故について調べていて、NPOの「ナロッチ再生・菜の花プロジェクト」という活動を知りました。チェルノブイリ原発事故で汚染された土地に菜

## 人間発見

だ。言葉の力を引き出した方強い旋律と温かいハーモニー

## ちびるに歌を

### 言葉が私から音楽引き出す 抛り所ない現代の希望に

時代が熱量の高い言葉を求めていたからかなと思います。歌う人が曲を育ててくれたと思う

震災の少し前、福島県の4つの高校の合同演奏会のために「ころよ、うたえ」という曲から夏にかけて「種を蒔く」人」という題名の男声合唱曲とマリンバ曲を作曲して、原発事故について調べていて、NPOの「ナロッチ再生・菜の花プロジェクト」という活動を知りました。チェルノブイリ原発事故で汚染された土地に菜